

ほ場条件下における遺伝子組換えダイズとツルマメとの自然交雑

(栽培実験期間:平成18年度)

確認項目		確認結果
交雑防止措置について	○交雑防止措置について	本栽培実験では、隔離距離による交雑防止措置を行っています。同種栽培作物までの距離が10m以上(約15m)ある事を確認しました。(研究所の外の同種栽培作物のほ場は約600m以内に無し)。
	○モニタリング措置について	本栽培実験では必要ありません。
混入・拡散防止措置について	○実験の種子、種苗の分別管理、野鳥等の食害による拡散防止について	実験種子以外と区分した管理、ビニール袋等での運搬、播種後防鳥網及びウサギ除けの網柵の設置による拡散防止を実施している事、および結実期前から防鳥網を設置した事を確認しました。
	○栽培実験に用いた機械施設等の洗浄等について	実験区画全面にマルチを設置し、また、機械等の実験区画外搬出の際、簞等で払い落としを実施している事を確認しました。
	○第1種使用規程承認作物の収穫物の管理等について	施設可能な保管庫で保管している事を確認しました。
	○栽培実験終了後の第1種使用規程承認作物等の処理等について	収穫物について埋め立てによる植物体不活化及び搬出の際のこぼれ落ちを防止している事を確認しました。
	○第1種使用規程承認作物を栽培した区画での後作の収穫物の取り扱いについて	栽培終了後、次期作に18年度に引き続き同じ実験栽培を行っていることを確認しました。
栽培実験に係る情報提供について	○計画書の公表について	平成18年5月18日に公表された事を確認しました。
	○説明会の開催等について	説明会が平成18年6月3日に開催された事を確認しました。また、本実験への見学の受け入れを実施している事を確認しました。
	○栽培実験の経過に関する情報提供について	説明会の開催等、本実験の経過について7件の情報がホームページに掲載されている事を確認しました。
	○栽培実験を終了した後の情報提供について	栽培、処理終了について、平成19年1月12日にホームページに掲載されたことを確認しました。また、実験結果の概要が平成19年6月2日開催の説明会にて発表されていることを確認しました。
栽培実験に係る管理体制の整備について	○栽培実験に係る管理体制の整備について	栽培実験責任者、作業管理主任者、情報提供主任者を指名して管理体制を整備している事を確認しました。

農業環境技術研究所 一般試験ほ場(1)



ツルマメ

遺伝子組換えダイズ
刈り取り時

平成18年10月6日(金)撮影

農業環境技術研究所 一般試験ほ場(2)



ウサギ
よけ

平成18年10月6日(金)撮影